東アジアにおけるCOVID-19関連医療物資の貿易の現状と課題

久野　新

1. はじめに

新型コロナウィルス（COVID-19）の世界的な感染拡大が続いている。４月３日現在、全世界で感染者数は100万人、死者数は５万人を上回り（表１）、世界人口の約半分（39億人）が自宅待機の命令・勧告の対象とされている（AFP通信）。日本、中国、韓国、およびASEAN10カ国を含む東アジアにおける感染状況に注目すると、人口千人あたりの感染者数はブルネイ（0.33人）、韓国（0.19人）、シンガポール（0.18人）で世界平均（0.13人）を上回っているものの、地域全体としては比較的低い水準（0.05人）に留まっている。しかし裏を返せば東アジアの殆どの国は依然として感染拡大の初期段階にあると言え、今後域内の国で医療崩壊が生じた場合、感染者や死者数が急増する可能性もあろう。たとえばインドネシアの致死率（9.5％）は、医療崩壊が生じたスペインの値（9.2％）を既に上回っている。

医療崩壊を回避するには、医療サービスの提供に不可欠な医療物資（医療機器、医療材料、および薬品等）を各国が継続して確保する必要がある。たとえば人工呼吸器や医薬品は救命や治療に不可欠であるし、医療用のマスク、防護服、ゴム手袋などは医療従事者自身をウィルスから守るうえで必須である。しかしながら、そうした物資やその原材料・部品の一部を輸入に依存している場合、外国の工場の操業停止や輸出制限措置などの影響により輸入国でも深刻な不足や価格高騰が生じる可能性がある。そこで以下では、COVID-19との闘いに不可欠な４つの医療物資を取り上げ、東アジアにおける貿易構造の現状について概観し、今後に向けた課題を考察する。

表1 主要国・地域におけるCOVID-19の感染状況

	感染者数	死者数	感染者数（千人あたり）	致死率
中国	82,432	3,322	0.06	4.0%
韓国	9,976	169	0.19	1.7%
日本	2,384	57	0.02	2.4%
ASEAN	10,963	348	0.02	3.2%
東アジア	105,755	3,896	0.05	3.7%
世界合計	1,007,977	52,771	0.13	5.2%
（米国）	238,820	5,758	0.73	2.4%
（イタリア）	115,242	13,915	1.95	12.1%
（スペイン）	112,065	10,348	2.42	9.2%

（出所）ジョンズ・ホプキンス大学、国連人口統計より作成。

2. 東アジアにおける医療物資の貿易構造

⑴ 日本におけるマスク不足のケース

東アジアにおける貿易構造について考察する前に、医療物資の不足の事例として、日本におけるマスクの事例について簡単に触れておく。日本衛生材料工業連合会によると、日本では国内需要の約８割を輸入マスクに依存している。２０１９年に輸入されたマスク12.7万トンの原産国の内訳を見ると、全体の約９割以上が中国（85.4％）、ベトナム（6.6％）、インドネシア（1.8％）の３カ国に集中しており、特に中国への依存度が極めて高い。こうした中、２０１９年11月に中国で新型コロナウィルスの発生が確認されると、日本でも２０２０年１月末から「マスク」というキーワードを用いたGoogle検索総量が劇的に上昇、この頃からマスク需要が急増したと考えられる（Google Trends）。一方、同時期の中国産マスクの輸入量を確認すると、２０２０年１月の約1.3万トンから翌２月には５千トン未満まで減少、前年同月比でも-50.9％の減少であった（財務省「貿易統計」）。この背景には、国内市場への出荷を優先させたい中国政府による「事実上の輸出規制」があったとされる（２０２０年３月21日毎日新聞）。以上より、２０２０年２月以降、国内需要の急増と輸入の大幅減という２つの要因が同時に発生した結果、日本におけるマスク不足は深刻化した。このように医療物資の調達先が１カ国に集中し、外国政府による輸出規制を抑止するための国際規律が存在しない場合、輸入国は緊急時に深刻な不足に直面することになる。

⑵ 東アジアにおける主要医療物資の貿易の現状

以上の事例を踏まえ、以下ではマスク、手の消毒剤（完成品）、医療用ゴム手袋、そして人工呼吸器を含む呼吸治療用機器の4つの物資について東アジアにおける貿易構造を概観する（表2）。主なファインディングは以下の5点である。第一に、同地域におけるマスク、ゴム手袋、呼吸治療用機器の最大の輸入国は日本である。なかでもマスクは東アジア13カ国の輸入総額の67.2％を日本が占めている（日本の人口は東アジアの総人口の5.6％に過ぎない）。第二に、域内輸入依存度に着目すると、ゴム手袋（90.8％）とマスク（83.4％）は極めて高い一方、呼吸治療用機器（29.5％）と消毒剤（32.5％）は相対的に低く、EUや米国など他の地域から分散して調達している。なおゴム手袋に関する域内最大の輸出国は天然ゴムの産地としても有名なマレーシア（40.8％）、次いでタイ（30.7％）であった。第三に、マスクの対中輸入依存度は地域全体としても約7割と際立って高い（特に日本、韓国、マレーシアで高い）。中国からのマスク供給が継続的に分断された場合、韓国やマレーシアでも不足が深刻化する可能性がある。一方、東アジアにはマスクの輸出超過国、すなわち一定の生産能力を有する国が8カ国存在している。事実、2020年2月に中国産マスクの輸入が滞った際、タイやカンボジアなどからの輸入が1月から2月にかけてむしろ増加した。第四に、マスク以外の物資の対中輸入依存度は低く、中国からの供給網断絶の影響は相対的に小さいと思われる。しかしながら、これら物資の生産に必要な原材料や部品の一部が中国から調達されている場合、中国国内の供給ショックが第三国における生産上のボトルネックとなる可能性もある。最後に、マスク以外の3物資は「輸入超過国」が10カ国以上存在しており、仮に外国からの供給網が分断された場合、不足や医療崩壊につながる可能性が示唆される。とりわけ衛生状態や栄養面で課題を抱える後発国で医療崩壊が起きた場合、感染拡大のスピードと量はイタリアやアメリカのそれらを遥かに上回る可能性も考えられる。

表2 東アジア（ASEAN+3）における主な医療物資の貿易構造

	マスク	手の消毒剤	医療用ゴム手袋	呼吸治療用機器
域内最大輸出国	中国	中国	マレーシア	シンガポール
（同国の輸出シェア）	83.8%	67.1%	40.8%	58.8%
域内最大輸入国	日本	中国	日本	日本
（同国の輸入シェア）	67.2%	46.8%	33.9%	33.3%
域内輸入比率	83.4%	32.5%	90.8%	29.5%
対中輸入比率	67.2%	11.0%	3.8%	10.2%
（日本の対中輸入比率）	78.4%	43.0%	0.0%	9.9%
輸入超過の域内国数	5	12	10	10

（出所）UN Comtradeより作成。データは2018年時点、金額ベース。

3. 総　括

日本におけるマスクの事例が示すとおり、生産国における工場の操業停止や輸出規制導入により供給網が絶たれた瞬間、輸入国では医療物資の不足や価格高騰に直面する。こうした問題を受け、現在、世界中の企業が供給網の再検討や多角化を余儀なくされている。一部の国では、医療物資の生産拠点の国内回帰も推進されている。しかしながら、国際分業が高度に細分化された今日、原材料や部品、さらにそれらの原材料や部品を含め、すべての生産工程を完全に自国に回帰させることは現実的でもなく、また真のリスク分散にもつながらない。なお医療物資の輸出規制の問題は、3月30日に開催されたG20貿易投資大臣会合でも議論され、そうした規制は「的を絞り、目的に照らし相応かつ透明性があり、一時的」かつ「WTOルールと整合的」であるべきことが合意された。一方、WTO協定で規定される輸出数量制限禁止の原則には抜け道も多い。ザンクトガレン大学のSimon Evenett教授の分析によると、3月21日時点でCOVID-19対策に必要な医療物資に対して何らかの輸出制限的措置を導入した国は54カ国に到達し、そこには中国、韓国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアなど、東アジアの供給網で重要な役割を果たしている国も含まれている。輸出国政府は善意と責任感に基づいて措置を導入したとしても、輸出規制の波がさらに拡大した場合、世界的な医療崩壊を助長しかねない。G20会合における合意の実効性を高めるための具体的行動に向けた国際協調が望まれる。

（くの　あらた・亜細亜大学国際関係学部教授）